

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成16年10月解析分)

## 1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成16年9月分(平成16年8月30日～10月3日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	0.00	0.00		12	ヘルパンギーナ	155	0.41	0.73	▲
2	RSウイルス感染症	4	0.01	-		13	麻疹	0	0.00	0.07	
3	咽頭結膜熱	237	0.63	0.36	↘	14	流行性耳下腺炎	395	1.05	0.69	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	142	0.38	0.39	↗	15	急性出血性結膜炎	3	0.03	0.02	
5	感染性胃腸炎	1,313	3.50	2.13	↗	16	流行性角結膜炎	194	1.94	1.28	↗
6	水痘	120	0.32	0.50	↗	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	113	0.30	0.95	↗	18	無菌性髄膜炎	11	0.10	0.16	⇒
8	伝染性紅斑	38	0.10	0.12	↘	19	マイコプラズマ肺炎	18	0.17	0.11	▲
9	突発性発しん	294	0.78	0.87	↗	20	クラミジア肺炎	0	-	0.01	
10	百日咳	9	0.02	0.03		21	成人麻疹	0	-	0.00	
11	風しん	1	0.00	0.02		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	▲	↗	⇒
↓	▼	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

### 定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1～14	15, 16	22～25	17～21, 26～28	
定点数	45	75	20	27	21	188

疾患 No	疾患名	月間 発生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	疾患 No	疾患名	月間 発生 数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
22	性器クラミジア感 染症	65	2.41	2.63	⇨	26	メチシリン耐性黄 色ブドウ球菌感染	99	4.71	-	⇨
23	性器ヘルペスウイ ルス感染症	12	0.44	0.53	⇩	27	ペニシリン耐性肺 炎球菌感染症	26	1.24	-	⇨
24	尖圭コンジローマ	9	0.33	0.35		28	薬剤耐性緑膿菌感 染症	11	0.52	-	⇨
25	淋菌感染症	14	0.52	1.24	⇩	均「過去5年平均」：過去5年間の同時期平 均（定点当り）					

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症 発生なし

二類感染症 3件発生（コレラ 3件（広島地域保健所管内1件，備北地域保健所管内2件））

三類感染症 10件発生（腸管出血性大腸菌感染症（O157 5件（広島市保健所管内3件，福山市保健所管内2件，尾三地域保健所 1件，O26 4件（広島市保健所管内））

四類感染症 発生なし

全数把握五類感染症 7件発生（後天性免疫不全症候群1件（広島市保健所管内），

アメーバ赤痢2件（広島市保健所管内），

ウイルス性肝炎（B型）1件（福山市保健所管内），

破傷風1件（広島地域保健所管内），梅毒2件（広島市保健所管内）

## 3 一般情報

平成16年9月（8月30～10月3日）の疾患別では，A群溶血性レンサ球菌咽頭炎，感染性胃腸炎，水痘，手足口病，突発性発しん，流行性耳下腺炎，流行性角結膜炎，マイコプラズマ肺炎，薬剤耐性緑膿菌感染症が 微増しているが，週によって増減を繰り返している。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は，増加傾向を示しているのが9月の特徴である。

10月に入り水痘（水ぼうそう）が急上昇しておりますので注意が必要です。

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

本疾患は，鼻汁，唾液中の溶レン菌の飛散によってヒトからヒトへ感染する。食品を介しての経口感染もある。

潜伏期間は約1日から4日。

症状は，突然の発熱（高熱），咽頭痛，全身の倦怠感などの初期症状で始まり嚙下痛，頸部リンパ節の腫脹，扁桃発赤腫脹が見られる。発熱は，通常3日から5日以内で下がり，主症状は1週間以内に消失する。扁桃の腫脹等が もとに戻るのには数週間を要する。

治療はペニシリン系薬剤が有効。

幼児，学童等，生徒を中心に学校，家庭での集団発生が多い。

### インフルエンザの予防接種をうけましょう

毎年，インフルエンザは発生し，大流行や少流行を繰り返しており，感染した場合，重症になったり，死亡する場合があります。

予防接種を受けてから免疫力が上昇するまで2週間程度かかります。

予防接種の効果は5ヶ月程度持続しますので，早めに予防接種を受けて流行に備えましょう。

例年，インフルエンザの流行は，11月～12月にかけて始まり，1月下旬から2月上旬をピークに減少していきますので，早目に予防接種を済ませることが重要です。

できれば12月末までに予防接種を済ませましょう。

各医療機関では，10月に入りインフルエンザの予防接種が実施されております。事前に電話等で予約を行い受診してください。

平成15年に発生した重症急性呼吸器症候群（SARS）の再流行の可能性があり，初期症状が類似していることから，重症化するとインフルエンザと混同される可能性もあります。また，本年発生した高病原性鳥インフルエンザは，国外で，鳥から人への感染が確認されており，最近では人から人への感染が懸念されております。これらのことからインフルエンザの予防接種を早めに受けましょう。